

協議ルール

- 1 要望を言うための会議ではない。
課題を解決するために全員で議論し、作業を行う。
- 2 ポジショントークはしない。所属・団体の立場を離れ、
本人・家族にとって必要なことを議論する。
- 3 本会議で変えることができない制度や仕組み等については議論しない。
- 4 他者の意見を頭ごなしに否定しない。
否定する際は、代替案・補足などを提言する。
- 5 従来やり方に固執しない。組み合わせ、改善、便乗 歓迎。
- 6 「仕組み」と「継続」づくりを意識する。
- 7 会議ごとに最低限合意できたことを確認する(ピン留め)。
- 8 会議で意見が衝突しても、会議後に引きずらない。
会議の話は会議の中で完結させる。
- 9 会議で決まった後に、「実はこう思っていた」と言わない。
- 10 会議で行うと決めたことは必ず実行する。

0

令和元年度第5回 北九州医療・介護連携プロジェクト会議

日時 令和元年8月19日(月) 19:00~20:30
場所 北九州市役所 3階 大集会室

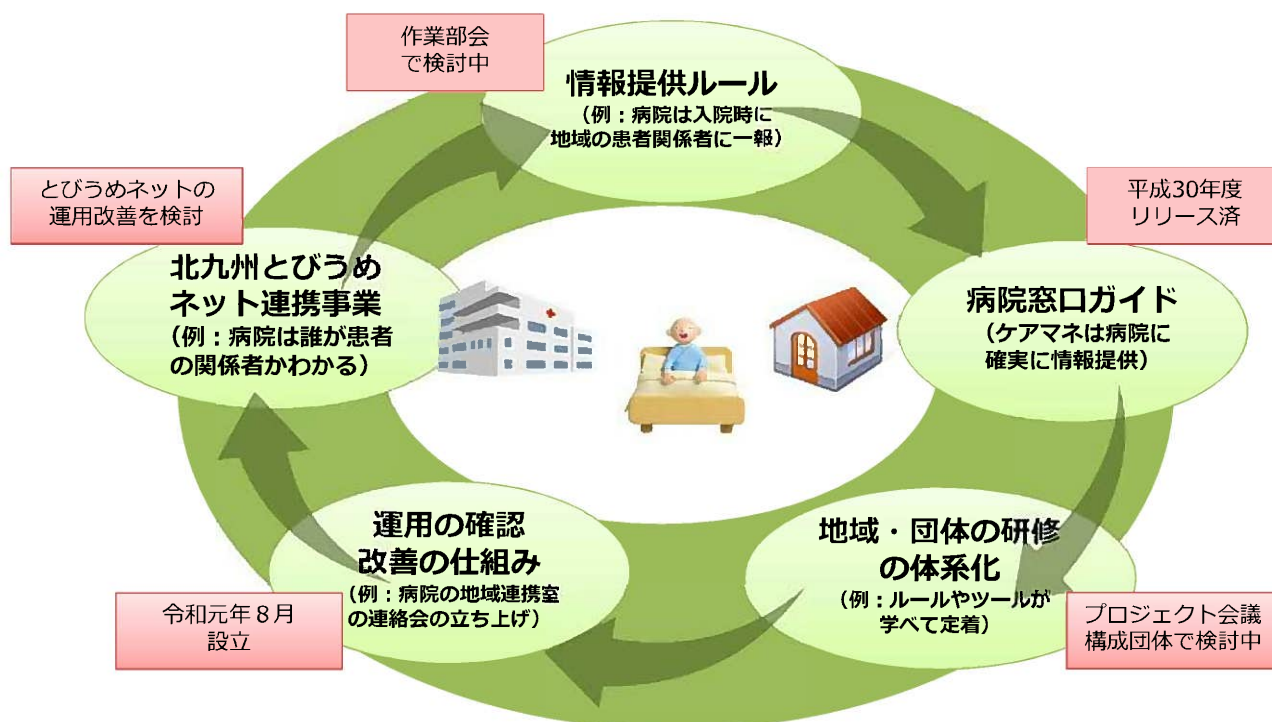
会議内容

- (1) 説明・周知状況
- (2) 北九州医療・介護連携プロジェクトへの協力状況
- (3) 病院窓口ガイド
- (4) -1北九州とびうめネット連携事業（骨子案→ 素案へ）
- (4) -2 " モデル実施に向けて
- (5) 地域連携室等連絡会

2

北九州医療・介護連携プロジェクト

=切れ目ない医療・介護の提供のため
医療・介護等専門職が的確かつ効率的に連携できる環境を整備



- 「病院窓口ガイド」は平成30年度に作成・公表
- その他のツール・ルールや取組は令和元年度に実施（第3回プロジェクト会議合意事項）

3

(1) 説明・周知状況

平成30年8月～平成31年4月
51団体・機関 68回 4,257名

令和元年5月～令和元年8月
53団体・機関 58回 1,986名

合 計 126回 6,243名

市医師会高齢社会対策委員会、主治医意見書記載研修会、五区医師会理事会等、21病院、市歯科医師会、北九州市薬剤師会理事会、保健福祉局幹部会、区（地域包括C等）、各区多職種連携研修会、医師会立訪問看護ステーション連絡会、福岡県MSW協会北九州地区勉強会、病院地域連携室等連絡会、福岡県理学療法士会研修会、北九州高齢者福祉事業協会研修、北九州ブロック介護老人保健施設協会、ケアマネット21研修会、ケアマネ協会研修会、各区ケアマネ研修会 等

(2) プロジェクトへの協力状況

病院窓口ガイドについて

<u>公表</u>	57病院 （うち、救急告示病院 18/18病院）
作成中	19病院
非公表	1病院（小倉第一病院）

とびうめネットについて

導入済	31病院（うち、救急告示病院 16/18病院）
<u>八幡</u>	11/27病院 （うち、救急告示病院 6/6病院）

地域連携室等連絡会について

<u>参加</u>	35病院
-----------	-------------

(3) 病院窓口ガイド

- | | | |
|-------------------|--------------------|---------|
| 1. 病院窓口ガイドの公表状況 | 57病院/83病院 | |
| | ※小倉第一病院は非公表のため含まない | |
| 2. 病院窓口ガイドを作成中の病院 | 19病院 | |
| 3. 今後協力依頼を行う病院 | 6病院 | |
| ・新門司病院 | ・門司松ヶ江病院 | ・聖ヨハネ病院 |
| ・小倉南メディカルケア病院 | ・松尾病院 | ・青葉台病院 |

6

(4) 北九州とびうめネット連携事業（骨子 → 素案へ）

○本事業骨子案を第4回会議で合意（4月26日）後、同案に対する意見をさまざまな場で聴取。

- | | | |
|-----------|---------------------------------------|----------------------------|
| 令和元年6月3日 | 地域連携室等連絡会設立等説明会 | 55病院/125名 |
| 令和元年7月19日 | とびうめネットに関する合同相談会 | 31病院/58名 |
| 令和元年7月30日 | 北九州市救急医療運営検討会 | 22病院（救急告示病院等） |
| 令和元年8月9日 | 北九州市高齢者支援と介護の質の向上推進会議
地域包括支援に関する会議 | 14名
(医療・介護・福祉・法曹などの有識者) |

○プロジェクト会議作業部会で、事業内容についてさらに検討



これらの内容を踏まえ「素案」をとりまとめ（本日協議）

7

地域連携室等連絡会 設立等説明会

日時 令和元年6月3日(月) 19:00~20:30

場所 アシスト 2階 講堂

内容 プロジェクトの進捗の説明と「病院窓口ガイド」に関する意見交換

「北九州とびうめネット連携事業」に関する意見交換

地域連携室等連絡会の設立について

参加者 55病院/125名

※北九州市医師会より 権頭理事、岩本理事が参加

※プロジェクト会議より 閑地構成員、藤好構成員が参加



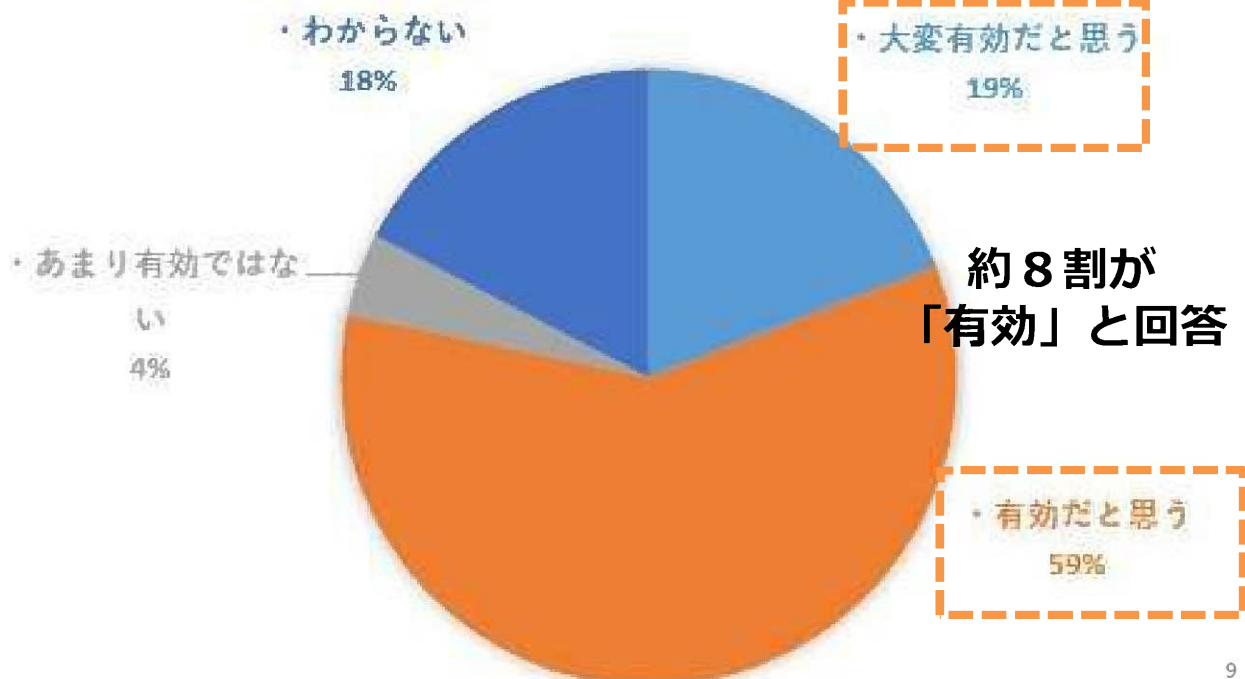
8

当日アンケートの集計結果(北九州とびうめネット連携事業)

Q. 「とびうめネット」の運用改善は有効だと思いますか？ (N=115)

「有効」が約8割。

「わからない」を選んだ方は「使ってみないとわからない」という意見が多数。



9

その他等記載内容 1 / 2

【肯定的な意見】

- ・業務整理にもつながる。
- ・CMの情報や内服等の情報が分からない時に正確な情報を早く確認できる。問い合わせ先さえわかれば、こちらから連絡できる
- ・入院時に入院までのいろいろな情報を収集するのが大変で時間を要してしまう
- ・患者から聞き取りができない状態及び緊急時にはとても必要だと思う
- ・難しそうなお患者様を受入れする場合は必要と思います
- ・処方内容等の情報を閲覧できるようになれば
- ・救急告示病院では、診療情報・在宅情報などが不明な場合も多いため、大変有効であると考えます
- ・国保連と介護保険からの情報が入るという方法が有効だと思う
- ・独居の方が増え、路上で救急搬送されてくる方が多かったので、名前はわかってても周囲のこと、その方を知る人を探すのが大変だった
- ・レセプトの情報をとれることで、収集力がとてもアップすると思います
- ・病院と在宅をつなぐ際に、介護情報は必要不可欠。また、治療を行う際に情報入手しやすく早期治療に結びつく
- ・多くのデータが集められれば有効だと思います
- ・救急搬送時に情報がない、とても困る事例が年々増えている
- ・患者情報を共有できることは良いと思うが、患者の個人情報提供にスムーズとの講義であったが、利用者の抵抗感などはないか不明である
- ・国保連データ等も含め、今後有効になると思う
- ・情報の共有はとてもよいことだと思う
- ・入院された患者さんが在宅情報を理解されておらず、情報収集に時間を要するから
- ・緊急入院が半数以上を占める状況では、基本情報がタイムリーに共有できることにつながると思います
- ・患者様の情報収集に時間を要するため
- ・情報収集のスピードが速くなり、早期の退院支援につながると思う
- ・早期の退院調整に介入出来てよい
- ・ケアマネ事業所等、入院時に得られないことのある情報がわかるから
- ・情報入力の手間が省ける

10

その他等記載内容 2 / 2

【肯定的だが課題もあるという意見】

- ※これらの疑問・課題については、引き続き、事業の検討や、導入に向けた病院向け説明会を開催することで解消していく。
- ・一目見てわかるものがあることは有効ではないかと思えます。ただ一方で、十分に活用できるかどうかとなると、環境・設備面から疑問も残ります
- ・情報内容の精度が担保出来ているのならば、仕組み自体は良い。現状では利用していないのでわからない
- ・有効だと思いますが、実際に使用していないため、どのくらい有効かはわかりません
- ・救急時は大変有効だと思うが、個人情報の面で患者さんとのトラブルになったり心配な面があるように思う
- ・有効とは思いますが、それをどのように利用されるのか、当事者がどれくらい理解できるのか
- ・有効であると思うが、独居で介護保険などの利用のない患者の情報が一番困っているのでもそこをどうするか

【否定的な意見】

- ・病歴そのものを入手できない仕組みのため
- ・療養型病院のため、退院調整は入所が多い。また、入院時ケアマネジャーさんが来院されることもあるが、情報提供書の持参・アポイントもない

【わからない・その他】

- ※これらの疑問・課題については、引き続き、事業の検討や、病院向け説明会を開催することで解消していく。
- ・北九州とびうめネット連携事業の内容を一回の説明会だけでは理解できず、そのため、有効なのかどうかわからない
- ・とびうめネットを利用するにはインターネット接続PCが必要となり、また電子カルテとの連動は不可能であり、現場作業量の増加は検討しなければなりません
- ・病院での取組になるので組織としての検討が必要と考えます

11

とびうめネットに関する合同相談会

日時 令和元年7月19日（金）19：00～20：30
場所 アシスト 2階 講堂
参加者 31病院／58名（導入済：19病院32名、導入未：12病院26名）
内容

- 19:00 運用中の「とびうめネット」について（「とびうめネット」導入の疑問解決）
 福岡県メディカルセンター診療情報ネットワーク推進課長 佐藤 彰記
 富士通株式会社 森 慶晃
- 19:30 北九州とびうめネット連携事業について（新旧「とびうめネット」の違い）
 北九州市保健福祉局地域医療課長 青木 穂高
- 20:00 とびうめワークショップ（個々の病院の導入までの疑問・課題への対応）



福岡県メディカルセンター説明時



北九州市保健福祉局説明時

12

当日アンケート結果

【とびうめネット導入済み病院の声（17病院）】

Q. 本日の相談会はわかりやすかったですか？（n=17）	
・わかりやすい 16病院	・戸畑共立病院 ・北九州市立八幡病院 ・製鉄記念八幡病院 ・済生会八幡総合病院 ・JCHO九州病院 ・九州労災病院 ・新小倉病院 ・門司掖済会病院 ・小倉到津病院 ・西野病院 ・あさひ松本病院 ・佐々木病院 ・三萩野病院 ・戸畑けんわ病院 ・北九州市立医療センター ・門司メディカルセンター
・わかりにくい 1病院	（とびうめネットの加入はしていますが、活用できていないので、画面のイメージがつかず、特に退院サマリーのくぐり はわからなかった）

○ 登録の方のカルテIDを現状作成しているので、今後何万と増加していくと思うと、業務に支障が出ないかが不安です。

※現在でも県内の登録確認だけで業務がいっぱい。

○ とびうめネット登録のイメージが患者さん本人からの申し出によってかかりつけ医が行うというものだったので、行政や病院が登録をうながすという発想がありませんでした。うまく事業が進むためには行政や病院がこの事業の意義を理解し、いかに役割分担、協力ができるかにかかっていると思います。

○ 現在、とびうめネットの活用ができていないのに、今後閲覧するようになるのか。

○ 緊急時紹介先医療機関の医師などが入力をするか、また、看護師やMSWが入力をした際、入力情報に間違いがないか等、責任をもてるかで入力を躊躇するのは。

○ 医療情報を比較的簡単に閲覧できることが、便利な反面、機微な情報なため不安がある。

○ 病院幹部への上申が必要。

○ 個別相談によりよく理解できました。

○ 課題は多いと思いますが、利用できるようにしたい。

○ 入力・更新作業担当者の検討が必要である。

○ 対象（住民）範囲が明確になった。

○ 大変ですが、がんばっていい内容になればいいかと思います。ご協力させていただきたいと思います。

13

当日アンケート結果

【とびうめネット導入「未」の病院（9病院）】

Q. 本日の相談会はわかりやすかったですか？(n=9)	
・わかりやすい 8病院	・萩原中央病院 ・北九州安部山公園病院 ・青山中央外科病院 ・北九州中央病院 ・鳥巢病院 ・大手町リハビリテーション病院 ・北九州八幡東病院 ・新栄会病院
・わかりにくい 1病院	(説明そのものではなく、内容に納得できないことがある)

Q. 今後、「とびうめネット」を活用するか？(n=9)	
・活用する	・北九州中央病院 ・大手町リハビリテーション病院 ・北九州八幡東病院
・活用する方向だが、事業に関して不安・疑問・課題がある	・萩原中央病院 ・北九州安部山公園病院 ・青山中央外科病院 ・鳥巢病院 ・霧ヶ丘つた病院 ・新栄会病院
・活用しない方向	0

Q. 「事業に関して不安・疑問・課題がある」、「活用しない方向」を選んだ理由は？(n=3)	
・病院の代表者の理解を得ることが難しそう	・萩原中央病院 ・青山中央外科病院 ・霧ヶ丘つた病院
・担当者の事業に関する理解がまだ十分ではない	
・院内での設置場所や利用者等の調整が必要である	

- 説明に来ていただきたい。
- 病院内でまだ検討できていない。
- どのくらいのかかりつけ医が登録しているのか？情報入力のペースは。国保からの情報だけで、情報が収集できるのか。
- 院内での活用方法が、あまりイメージできない。

14

北九州市救急医療運営検討会

日時 令和元年 7月30日（火）19：00～20：00

場所 北九州市役所 3階 大集会室

参加者 22病院 ※院長、副院長、救急担当医師等

- ・門司メディカルセンター ・JR九州病院 ・新小文字病院 ・門司掖済会病院
- ・市立医療センター ・北九州総合病院 ・健和会大手町病院 ・小倉記念病院 ・新小倉病院
- ・三萩野病院 ・九州労災病院 ・小倉医療センター ・産業医科大学若松病院
- ・東和病院 ・市立八幡病院 ・済生会八幡総合病院 ・製鉄記念八幡病院 ・産業医科大学病院
- ・正和中央病院 ・JCHO九州病院 ・戸畑共立病院 ・戸畑総合病院

結果 骨子案の方向で進めていくことについて合意を得た

15